

おがわ ちえ  
小川 知恵文化学部 准教授  
博士(応用言語学)/テンブル大学ホームページ URL  
なし

## 主な研究業績

- Ogawa, C (出版予定). Teaching ideas of improving oral performance through formulaic language instruction. JALT SIG VOCAB, *Vocabulary Learning and Instruction*, 9 (2), 1-7. <https://doi.org/10.7820/vli.v09.2.ogawa>
- Ogawa, C (2019). Low-proficiency university students' perceptions of pretask planning and their monologue task performances. JALT TBLT SIG, Proceedings of the TBLT in Asia 2018 Conference, 14-23.
- Ogawa, C (2017) A case study of form-focused intervention on speaking development. 立教大学英語ディスカッションセンター *New Direction in Teaching and Learning English Discussion*, 5, 198-207
- Ogawa, C (2016). Examining the effects of types of pre-task planning on oral performances. *JALT Journal*, 38 (2) 97-118.
- Ogawa, C (2016). Development of speaking fluency with model input and peer-check activity. 立教大学英語ディスカッションセンター *New Direction in Teaching and Learning English Discussion*, 4, 182-191
- 小川知恵 「タスクの効果的な設計とは？」『英語教育』2015年6月号 第1特集 大修館書店
- Ogawa, C (2013). Teachers' reflective learning through a teacher study group: Teachers' beliefs of task-based language teaching JACET, [JACET 言語教師認知研究会研究集録 2013] 78-100

## 研究テーマ Research theme

## 第二言語習得:英語スピーキング力の向上と評価手法について

## 概要 Overview

第二言語習得における英語スピーキング能力に関心を持ち、現在は日本の英語学習者(主に大学生)を対象に、英語を話す「流暢さ」について研究を行っています。一般的に「流暢さ」(Fluency)は、スラスラ話す・ネイティブスピーカーのような話し方と広く捉えられますが、応用言語学分野ではより詳細に「停止・繰り返し・言い直しがなく、より速く・スムーズな話し方」と捉えられています。

## ＜英語スピーキングの評価＞

主な研究手法は、録音した音声データの文字起こしをして、停止の長さ、子音の数、繰り返しや言い直しの回数を音声ソフト Praat (<http://www.praat.org>) (Boersma & Weenink, 2009) を使用して分析を行います。一方で、学習者のスピーキングを聞いた評価者(または面接官)が流暢さの度合いを審査してもらう方法もあります。英語スピーキング能力の評価は、TOEIC Speaking&Writing, TOEFL iBT, TEAP など様々な民間の英語テストにも使用され、日本でも今後ますます注目される研究分野となるでしょう。

## ＜教育的介入の効果＞

英語教育の中でも、特にタスクを中心とした言語指導法(TBLT: Task-based Language Teaching)に興味を持ち、英語スピーキング力を高めるためにはどのような指導法が効果的なのかを研究しています。日本人学習者が、外国語として英語を学ぶEFL(English as a Foreign Language)の環境にしながら、話す流暢さを高める教育的介入の効果の研究をしています。どのように英語を習得するかを研究する第二言語習得研究は、語学を学ぶ側にも教える側にも大切であり、中学校や高校など教育現場でも役立つ研究を目指しています。

## 応用分野 Application areas

英語スピーキングの教育・研究

## 共同研究等へのニーズ Need for joint research

第二言語習得(主に英語)に関連する共同研究

- 例) 英語コミュニケーション力習得に関する人材開発
- 例) 中学校・高等学校の英語教員の方との共同研究
- 例) 英語スピーキング学習のための教材開発
- 例) 英語スピーキングテストの評価者トレーニング